

春季大祭の神賑い

— 神苑にこだまする

剣戟の響きと朗吟の美声—

奉納剣道大会

四月三日(日)、宗像大社春季大祭奉納剣道大会が本殿境内に於て開催された。この大会は、春季大祭の神賑行事として、毎年福岡



四月三日(日)、宗像大社春季大祭奉納剣道大会が本殿境内に於て開催された。この大会は、春季大祭の神賑行事として、毎年福岡

県剣道連盟宗像支部の主催により行われているもので、今年も宗像地区の小学生を中心に、約四百名が参加して盛大に行われた。本年より女子選手の増加にもない、新しく女子の部が設けられ例年にも増して華やかな大会となった。

この剣道大会は野試合の為、前日の大雨の影響が心配されたが当日は快晴に恵まれ、春の暖かな日差しが降り注ぐ中、午前九時、選手一同はお祝いを受けて、本殿に押入り、試合開始となった。

鋭い気合を發し砂を蹴散らしながら数ヶ所での熱戦

- 小学三、四年男子
 - 優勝 日の里東剣道教室
 - 準優勝 玄海少年剣道教室
 - 第三位 玄辰館
- 小学五、六年男子
 - 優勝 玄海少年剣道教室
 - 準優勝 河東剣道教室A
 - 第三位 東郷剣道教室
- 中学一年男子
 - 優勝 日の里中学校
 - 準優勝 玄辰館
 - 第三位 玄海中学校
- 中学二年男子
 - 優勝 玄海中学校
 - 準優勝 河東中学校
 - 第三位 河東中学校

奉納吟詠大会

うららかな春の陽光にまつまれた、四月三日(日)、恒例の奉納吟詠大会が、北九州に本部を置く、鶴岡吟詠会(宗像・河野鶴岡)により、当社春季大祭神賑行事の一環として、午前十時より清見殿に於て開催された。

当日は、宗像大神の神前にて、日頃鍛錬した自慢の喉を披露せんものと、同会の会員が北九州を始め宗像周辺より参集した。

大会は、まず拝殿にての献吟式より始まった。全員でお祝いを受けた後、宗家の河野鶴岡先生に合せ、参加会員が揃って、「宗像宮」を朗々と吟誦、神前に奉納



去る三月十日、当社責任役員会が開催された。これは年度初めを控えて、要会議である。

責任役員会開催

— 六十二年年度予算案を審議 —

去る三月十日、当社責任役員会が開催された。これは年度初めを控えて、要会議である。

同役員会は、午前十時開会、議式厳格に遵行された。議長は、社代表代、表責任役員が議長となり、議事を進行させた。当日の出席者は、役員九名、欠席一名、先ず昨年近き年度に先ず、役員一名

同役員会は、午前十時開会、議式厳格に遵行された。議長は、社代表代、表責任役員が議長となり、議事を進行させた。当日の出席者は、役員九名、欠席一名、先ず昨年近き年度に先ず、役員一名



最後、玉串拝札を行って、献吟式を終えた。献吟式の後、会場を清明殿に移し、会員一人一人がこの日の為に精進した、得意の吟を次々と披露した。次いで師範、来賓者が模範吟を誦すれば、参加者はしばしつとりと聞き入っていた。

沖津宮現地大祭

〔祭典案内〕

来る五月二十七日、筑前沖ノ島鎮座宗像大社沖津宮において日本海海戦を記念し、恒例の国家鎮魂現地大祭を肅行致しますので、参拝希望の方は御連絡下さい。

一、参拝日程

- 1月26日 木曜日
- 午後六時までに沖津宮(筑前大島)に到着し届け出る事。受付後宵宮祭に参列する事。
- 2月27日 金曜日
- 午前六時大島出発。午前九時沖ノ島到着。直ちに海水にて禊。午前十時祭典。午後一時沖ノ島出発。同四時大島到着。解散。
- 3 渡海船(大島・沖津宮)
- 大島発午後四時二十分。同六時
- 4 当日荒天等のため渡島不可能の場合は、大島の沖津宮港所に於て祭典肅行致します。

一、要項

- 1 参拝者は沖津宮奉賛会費として一名八千円をお納め願います。
- 2 五月二十六日は大島にて斎泊(宿所)食事(弁当)は各自で御手配下さい。
- 3 乗船者数に制限がありますので、参拝希望の方々の内より当社で厳選の上決定致します。
- 4 年令七十才以上の方の渡島は関係筋の通達によりお断り致します。
- 尚 長時間の乗船に堪えられない方や健康状態が良好でない方は、御遠慮願います。
- 好参申込書、心得、要項等を用意しておりますので、返信用切手同封の上左記宛御申込み下さい。

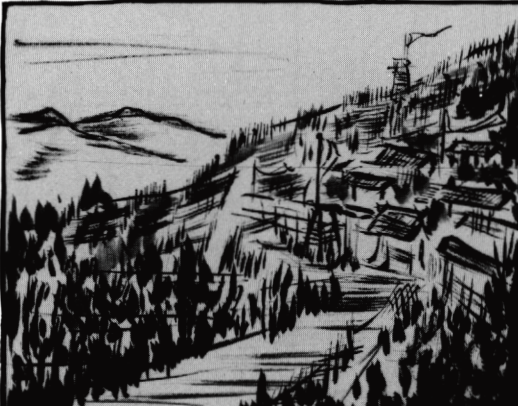
申込先 宗像郡玄海町田島 宗像大社社務所 儀式課 電話 〇九四〇・六一三二二(代) 〇八一―三五

町長の八波武責任役員の後任に就任された古賀芳人氏の紹介があり、続いて当社の昭和六十三年度の予算案が審議された。本年の正月三ヶ日が温暖で天候に恵まれたため、参拝者が増加し、昭和六十三年年度の決算見通しとなったが、予算は天候に左右されない前年度並みの堅実な額が計上され、役員一同意義を述べ、閉会した。

三十六歌仙扁額(二) 天正年間奉納(六)

楽松子

中世以降の武家を中心とした社会情勢の時代での宗像族の列に加わえられ、御家人の列に加わえられ、社頭並びに領土を安堵された。多くの荘園を占有する武家の惣領として北部九州及び山口地方に永々と継続されてきた宗像一族の守りも、室町時代終末期の戦国時代(二六世紀)に入ると、大きくくずれ、世の中が群雄割拠の時代となり、宗像一族は、大内氏、同様に宗像も、近隣の諸領主の戦乱が続き、また同族内での争いが多く相続つていく。特に氏貞が、大宮司の職につく過程において、同族同志の骨肉の闘争や謀略の連続で、これらは戦国争乱の日本の縮図をみるまようであったことが、「宗像記」や「宗像氏系図」に詳細に記されている。この時代は、応仁元年(一四六七)から一〇年間続いた「応仁の乱」、いわゆる足利将軍家の相継問題に端を発し、細川勝元と山名宗全を中心として、当時の東西の諸大名を一手に割けた動乱である。また同族も左右に分かれ、上を倒す「下剋上」の世を作った大乱であった。そのような戦国時代も未



の時に、幼ない、鍋舟丸のちの太閤宗像氏貞が、山口の黒川郷より宗像入り、宗像地方の最高峰の孔大寺に、ここに生まれ育った幼ない鍋舟丸がのちに、父の居城白山城へ入り、宗像社頭主となっていく。弘治二年(一五五二)の時十三歳となつた鍋舟丸は、名を氏貞と改め、いよいよ大宮司であり、領主として踏み出す。しかし宗像に入つて以降の間に、宗像の修造「宗像遺蹟考」天文廿一年(一五五二)をはじめ境内諸施設の修整を行つていく。しかし外戦も多く、天文廿一年の大夫方の遠賀開城攻めや、弘治元年(一五五五)七月八日には、立花勢に所有されている許斐城を奪還している。新撰宗像記考證「同年十月一日には、外祖父陶晴賢を後援するが、厳島で毛利元就に破れ晴賢は没す、毛利家文書」など波乱も多い。

山(四九九メートル)の山裾にある小高い丘の上である。一面は雑草木に覆われ、その跡かたも今は見ることが出来ない。ここに最初に山城を構築し館を建造したのが、大宮司宗像氏国である。時は平安時代(一八七)となる。天治五年(一一八九)と言われている。氏貞の父である大宮司正氏(のち黒川郡少輔隆尚と称す)も、大宮司職を辞した後に隠居場として住んだ館である。九州北辺では

JRダイヤ改正により 地元住民の悲願達成 「教育大前駅」誕生 福岡駅には快速電車が停車



三月十三日のJRダイヤ改正に伴い、宗像市後藤寺にJ.R九州「教育大前駅」の開設。更には宗像郡福岡町の「福岡駅」には快速電車の停車が実現し、宗像地区は二重の喜びにわいた。

福岡駅には快速電車が停車 育クラブ員十名により赤間駅からリレーされた聖火が...

再び、新駅誘致期成会を作 期成会を作 長年誘致...

同駅の乗降者が居住する 福岡町、津屋崎町にとつて...

同駅にはもう一つの顔である、J.R直営のコンビニエンスストア「生活列車」が...



宗像大社氏子会 評議員会開催

去る三月十三日午前十一時より、宗像大社氏子会評議員会が、河野幸人氏子会長を始め四十名の評議員と、当社兼交司以下九名の職員が出席し、清明殿に於て開催された。

各地区役員改選につき、評議員改選の件として、各地区役員改選につき、評議員改選の件として...

永年勤続者表彰の件、毎年宗像大社の時祭を行つて来たが、今年、宗像大社に...

三月二十日、全国各地の代表六十名が出場し、東京日本武道館にて、日本一を目指す熱戦が行われ、...

谷学園、東海大相模、天理と共にシードされ、優勝候補にあげられていた。...

監督の作戦も見事なもので、その期待に応じた選手達も立派で...

準々決勝 東海大第五(三人残し) 小杉(富山) 好間(福島)...

準決勝 東海大第五(二人残し) 世田谷学園(東京) 決勝 東海大第五(二人残し) 天理(奈良)...

全国高校柔道選手権大会 東海大第五高初優勝

三月二十日、全国各地の代表六十名が出場し、東京日本武道館にて、日本一を目指す熱戦が行われ、...

谷学園、東海大相模、天理と共にシードされ、優勝候補にあげられていた。...

監督の作戦も見事なもので、その期待に応じた選手達も立派で...

準々決勝 東海大第五(三人残し) 小杉(富山) 好間(福島)...

準決勝 東海大第五(二人残し) 世田谷学園(東京) 決勝 東海大第五(二人残し) 天理(奈良)...

準々決勝 東海大第五(三人残し) 小杉(富山) 好間(福島)...

社務日誌抄 三月一日 月次祭 三月八日 孔大寺神社祭...

辞令 昭和六十二年四月一日付で 長年の悲願であっただけに、...

宗像大社歌会
俳句作品集(三)

津屋崎 井浦 良介
潮の穂先に驚舞降るの広田
かな

福岡 森 清
戻り寒雀吸いこむ軒端かな

藤沢市 井上 玄洋
暁の街に流れ初音かな

鐘崎 岩瀬 辰夫
新石布敷き夕べの食膳楽し

福岡中央 力丸 玄風
ばんばりの明るき今宵離の
客

福岡 広渡 一寿軒
春船渡りもたしひとり居
で

田熊 安部 ゆき
古時計律儀に打つや日脚伸
ぶ

津屋崎 西住喜郎
囁りや真似ておぼゆる子
言葉

田熊 力丸 一郎
春寒や老にもささ夢ひと
つ

日里 花田いつえ
春の風邪投函延ばす封一



(続)
浜の寄物

五島福江島へ(2)



本土の涯を辞した第十六
次遣唐使船は苦難の旅なら
であった。第三船は肥前松
浦で遭難。第四船は不明。
第一船も生死不明二出入
シ、波濤ノ上三隻曳セラル
た。

「群本涯」の碑を後にし
て、高浜・朝泊海水浴場へ
まわり、白砂の海岸を歩い
た。そう広い砂浜ではない
が、美しい浜であった。砂
が豊かである。漂着物も少
なかつたが、それでも、韓
国製・台湾製品は目につい
た。高浜は島内でもっとも
海水浴客で賑うところだそ
うである。

タクシーの運転手は、車
窓から見える景色を説明し
て退屈することはなかった。
島のくらし、カンロイモ
のことも聞かされてくれた。
福江市に着いたのは、昼
も過ぎたので、早速
食事をする。五島の名物と
いうハコグの味噌料理を
食べた。漂着して、砂浜に
白く干涸びたハコグはよ
く目につくが、食べるだけ
に、どんなに思っていたか
べるのだらうという興味が
ある。腹をわり、内臓をと

り出して、体の横綱、ハコ
のヌミといった方がよい。
そこに僅かだが身がついて
いる。脂肪分も、味噌
とまろく、こり、味噌
とした味で、まさしく珍味
である。一匹食べると、結
構、満腹感があつた。
ホテルに着くと、五島高
校の池崎善博先生から電話
が入っていたので、連絡を
とり、久しぶりに会った。
今年(昭和六二)四月の人
事異動で、長崎西高校から
五島高校へ、教員は生物で
早速、先生の島内巡りがは
じまり、十二月上旬、三井
楽湾に面した打折(うちお
り)海岸で、漂着したベニ
オキナエビスガイを採集さ
れた。

ベニオキナエビスガイチ
ウジャガイ科)の仲間ほ、
世界で十種(十六種という
説もある)、日本近海に六種
ほどあるが、稀産である。
古生代に栄えた化石と、今
のエビス貝も、ほとんど変
化がなく、オウムガイや、
カブトガイ等と共に「生き
ている化石」としても知ら
れる。

大型の巻貝で、殻表は美
しく、貝の王者ともいわれ
貝マニア垂涎の的である。
このベニオキナエビスは
水深二〇〇米のところに棲
息している。そんな貝が何
故に漂着するのかが、東シ
海の底引網にかかり、それ
が三井楽付近まで運ばれ
てから長年月かけて、波など
の作用で運ばれたのか。

貝の表面は、長期間海底
にあったのではなく、むし
ら漂着して、風雨にさらさ
れた期間が長かつたので、
底部には若干青みがかった
白い。要するに漂着物の面
白さは、何が寄るか分から
ない、偶然性にある。
それにしても、池崎先生
には貴重な発見が多い。松
浦高校勤務の時は、カブ
トガイの孵化を松浦湾で、
日本では稀れといわれるヒ
メウミガメの発見、漂着し
たオサガメを解剖されて、
食室につまったビニールの
検出など、今度はベニオ
キナエビスガイの発見であ
る。

海岸を歩いていたら、オ
サガメとサメも漂着してい
た。オサガメは頭部がなく
腹甲の部分、サメは切り落
された頭部で、どつともア
サメではないかと思わずら
口を開くと、鋭い歯がずら
りと並んでいる。ジョーズ
だ。二人で標本資料のため
十本ずつ、スコップで歯を
切り取ってきた。他に海漂
器の蓋が一個あつた。
(写真は漂着したベニオキ
ナエビスガイ)

このベニオキナエビスは
水深二〇〇米のところに棲
息している。そんな貝が何
故に漂着するのかが、東シ
海の底引網にかかり、それ
が三井楽付近まで運ばれ
てから長年月かけて、波など
の作用で運ばれたのか。

このベニオキナエビスは
水深二〇〇米のところに棲
息している。そんな貝が何
故に漂着するのかが、東シ
海の底引網にかかり、それ
が三井楽付近まで運ばれ
てから長年月かけて、波など
の作用で運ばれたのか。

このベニオキナエビスは
水深二〇〇米のところに棲
息している。そんな貝が何
故に漂着するのかが、東シ
海の底引網にかかり、それ
が三井楽付近まで運ばれ
てから長年月かけて、波など
の作用で運ばれたのか。

このベニオキナエビスは
水深二〇〇米のところに棲
息している。そんな貝が何
故に漂着するのかが、東シ
海の底引網にかかり、それ
が三井楽付近まで運ばれ
てから長年月かけて、波など
の作用で運ばれたのか。

宗像地方は歴史の宝庫で
ある。ここに、宗像水軍の
物語りにふれてみたい。海
の帝王として宗像一族が大
きな支配権を握っていた一
時があつた。
歴史に残る「倭寇」に宗
像一族は関係があつたので
ある。倭寇について一番古
い記述があるのは朝鮮の高
麗史の中で、高宗十年(一
二三年)の頃である。
特に倭寇の活動が盛んに
なるのは、古
なるのは十四世紀
頃からで、彼
らは朝鮮半島
中国大陸沿岸
をかたけぐり
明国からは北
南兩海(はく
りやんわ)、
朝鮮からは三
島倭寇(さん
しやうこう)
と云われ、彼
らから非常に
恐れられ、
恐怖の的にな
つていた。

このような倭寇の活動は、
南北朝から室町時代初期の
にかけての「前期倭寇」と応
仁の乱の時から慶長役にか
けて活動した「後期倭寇」
にわけることが出来る。
これらの倭寇の中でも宗
像水軍の勢力は大きく、特
に宗像氏は宗像社頭を支配
すると共に、大島、沖ノ島、
志賀に所領をもつ、遠くは
糸島郡の沖合、小島島迄も
有島等の洋上を支配権を
確立していたのである。彼
らは、「三隻の船団で人数
が四、五人は数百艘の船
から、時には数百艘の船
で数千人という大規模な
ものもあつた。
これだけの集団になると

正式な通商政策を行つよう
になった。
倭寇往来盛んなとき、宗
像水軍の若き海の男、丸井
八郎左衛門は、大官司の密
命を帯び、大船団を編成し
た。当時最も大きな港は神
湊、鐘崎、大島で軍船が
それぞれ配船された。丸井
八郎左衛門は大島の軍船の
首領で副首領に鐘崎の繩田
甚八、神湊の水島勘助が
選ばれた。その日の夕刻には
大船団四十五隻が首領八郎
左衛門の配船にも出船し
たのである。
この水軍の出発は、宗像
氏の雄大な意図があり、日
本全倭寇の統率はおろか、
九州全土近畿にも及ぶ大勢
力を握る計画のものであり、
その為の軍資金調達であつ

た。永い日数をかけ、よう
やく目的を達し、巨萬の財
宝を運び、朝鮮から対馬、
沖ノ島と長い旅を終えてよ
うやくの計画が、如何にし
て外部にもれたのか、仲間
の水軍の嫉妬か、又勢力の
うばいあひが、巨萬の財宝
のある。付近の松浦、志賀ノ
島、長門、北九州の連合軍
がおそいか
つて来たの
である。夕闇
せまるを軍は
忽ち阿修羅の
戦場と化した。
潮に釣かれた
海の男のふ
いと怒聲、接
撃して切りむ
すぶ兵戦。
ある船は火を
かけられ黒
煙と蓋粉を
まきまきあげ

た。永い日数をかけ、よう
やく目的を達し、巨萬の財
宝を運び、朝鮮から対馬、
沖ノ島と長い旅を終えてよ
うやくの計画が、如何にし
て外部にもれたのか、仲間
の水軍の嫉妬か、又勢力の
うばいあひが、巨萬の財宝
のある。付近の松浦、志賀ノ
島、長門、北九州の連合軍
がおそいか
つて来たの
である。夕闇
せまるを軍は
忽ち阿修羅の
戦場と化した。
潮に釣かれた
海の男のふ
いと怒聲、接
撃して切りむ
すぶ兵戦。
ある船は火を
かけられ黒
煙と蓋粉を
まきまきあげ

た。永い日数をかけ、よう
やく目的を達し、巨萬の財
宝を運び、朝鮮から対馬、
沖ノ島と長い旅を終えてよ
うやくの計画が、如何にし
て外部にもれたのか、仲間
の水軍の嫉妬か、又勢力の
うばいあひが、巨萬の財宝
のある。付近の松浦、志賀ノ
島、長門、北九州の連合軍
がおそいか
つて来たの
である。夕闇
せまるを軍は
忽ち阿修羅の
戦場と化した。
潮に釣かれた
海の男のふ
いと怒聲、接
撃して切りむ
すぶ兵戦。
ある船は火を
かけられ黒
煙と蓋粉を
まきまきあげ

た。永い日数をかけ、よう
やく目的を達し、巨萬の財
宝を運び、朝鮮から対馬、
沖ノ島と長い旅を終えてよ
うやくの計画が、如何にし
て外部にもれたのか、仲間
の水軍の嫉妬か、又勢力の
うばいあひが、巨萬の財宝
のある。付近の松浦、志賀ノ
島、長門、北九州の連合軍
がおそいか
つて来たの
である。夕闇
せまるを軍は
忽ち阿修羅の
戦場と化した。
潮に釣かれた
海の男のふ
いと怒聲、接
撃して切りむ
すぶ兵戦。
ある船は火を
かけられ黒
煙と蓋粉を
まきまきあげ

た。永い日数をかけ、よう
やく目的を達し、巨萬の財
宝を運び、朝鮮から対馬、
沖ノ島と長い旅を終えてよ
うやくの計画が、如何にし
て外部にもれたのか、仲間
の水軍の嫉妬か、又勢力の
うばいあひが、巨萬の財宝
のある。付近の松浦、志賀ノ
島、長門、北九州の連合軍
がおそいか
つて来たの
である。夕闇
せまるを軍は
忽ち阿修羅の
戦場と化した。
潮に釣かれた
海の男のふ
いと怒聲、接
撃して切りむ
すぶ兵戦。
ある船は火を
かけられ黒
煙と蓋粉を
まきまきあげ

た。永い日数をかけ、よう
やく目的を達し、巨萬の財
宝を運び、朝鮮から対馬、
沖ノ島と長い旅を終えてよ
うやくの計画が、如何にし
て外部にもれたのか、仲間
の水軍の嫉妬か、又勢力の
うばいあひが、巨萬の財宝
のある。付近の松浦、志賀ノ
島、長門、北九州の連合軍
がおそいか
つて来たの
である。夕闇
せまるを軍は
忽ち阿修羅の
戦場と化した。
潮に釣かれた
海の男のふ
いと怒聲、接
撃して切りむ
すぶ兵戦。
ある船は火を
かけられ黒
煙と蓋粉を
まきまきあげ

た。永い日数をかけ、よう
やく目的を達し、巨萬の財
宝を運び、朝鮮から対馬、
沖ノ島と長い旅を終えてよ
うやくの計画が、如何にし
て外部にもれたのか、仲間
の水軍の嫉妬か、又勢力の
うばいあひが、巨萬の財宝
のある。付近の松浦、志賀ノ
島、長門、北九州の連合軍
がおそいか
つて来たの
である。夕闇
せまるを軍は
忽ち阿修羅の
戦場と化した。
潮に釣かれた
海の男のふ
いと怒聲、接
撃して切りむ
すぶ兵戦。
ある船は火を
かけられ黒
煙と蓋粉を
まきまきあげ

た。永い日数をかけ、よう
やく目的を達し、巨萬の財
宝を運び、朝鮮から対馬、
沖ノ島と長い旅を終えてよ
うやくの計画が、如何にし
て外部にもれたのか、仲間
の水軍の嫉妬か、又勢力の
うばいあひが、巨萬の財宝
のある。付近の松浦、志賀ノ
島、長門、北九州の連合軍
がおそいか
つて来たの
である。夕闇
せまるを軍は
忽ち阿修羅の
戦場と化した。
潮に釣かれた
海の男のふ
いと怒聲、接
撃して切りむ
すぶ兵戦。
ある船は火を
かけられ黒
煙と蓋粉を
まきまきあげ

た。永い日数をかけ、よう
やく目的を達し、巨萬の財
宝を運び、朝鮮から対馬、
沖ノ島と長い旅を終えてよ
うやくの計画が、如何にし
て外部にもれたのか、仲間
の水軍の嫉妬か、又勢力の
うばいあひが、巨萬の財宝
のある。付近の松浦、志賀ノ
島、長門、北九州の連合軍
がおそいか
つて来たの
である。夕闇
せまるを軍は
忽ち阿修羅の
戦場と化した。
潮に釣かれた
海の男のふ
いと怒聲、接
撃して切りむ
すぶ兵戦。
ある船は火を
かけられ黒
煙と蓋粉を
まきまきあげ

た。永い日数をかけ、よう
やく目的を達し、巨萬の財
宝を運び、朝鮮から対馬、
沖ノ島と長い旅を終えてよ
うやくの計画が、如何にし
て外部にもれたのか、仲間
の水軍の嫉妬か、又勢力の
うばいあひが、巨萬の財宝
のある。付近の松浦、志賀ノ
島、長門、北九州の連合軍
がおそいか
つて来たの
である。夕闇
せまるを軍は
忽ち阿修羅の
戦場と化した。
潮に釣かれた
海の男のふ
いと怒聲、接
撃して切りむ
すぶ兵戦。
ある船は火を
かけられ黒
煙と蓋粉を
まきまきあげ

宗像むかし話(26)

宗像水軍



宗像地方は歴史の宝庫で
ある。ここに、宗像水軍の
物語りにふれてみたい。海
の帝王として宗像一族が大
きな支配権を握っていた一
時があつた。
歴史に残る「倭寇」に宗
像一族は関係があつたので
ある。倭寇について一番古
い記述があるのは朝鮮の高
麗史の中で、高宗十年(一
二三年)の頃である。
特に倭寇の活動が盛んに
なるのは、古
なるのは十四世紀
頃からで、彼
らは朝鮮半島
中国大陸沿岸
をかたけぐり
明国からは北
南兩海(はく
りやんわ)、
朝鮮からは三
島倭寇(さん
しやうこう)
と云われ、彼
らから非常に
恐れられ、
恐怖の的にな
つていた。
このような倭寇の活動は、
南北朝から室町時代初期の
にかけての「前期倭寇」と応
仁の乱の時から慶長役にか
けて活動した「後期倭寇」
にわけることが出来る。
これらの倭寇の中でも宗
像水軍の勢力は大きく、特
に宗像氏は宗像社頭を支配
すると共に、大島、沖ノ島、
志賀に所領をもつ、遠くは
糸島郡の沖合、小島島迄も
有島等の洋上を支配権を
確立していたのである。彼
らは、「三隻の船団で人数
が四、五人は数百艘の船
から、時には数百艘の船
で数千人という大規模な
ものもあつた。
これだけの集団になると